

みのの MINO EDO

東京⇄笠原情報誌 MAIL版



企画展示のタイルベンチを中央に配置し、公園のようなイメージに。



セラミックタイルプラザのコンセプトは「タイルのある風景」。白を基調とした、すっきりしたデザイン。

第39回 ジャパンホームショーの話題から



ベンチのモザイクタイル。

22社が
参加しました

Q-CAT
マスコット
キャラクター
Q太くん



2017年11月15日(水)～17日(金)、東京ビッグサイト(東京都江東区)において、建材・部材、インテリア、免震技術、設備・システムなど、住まいに関する製品や情報に関する展示会「Japan Home & Building Show 2017」が開催された(主催：一般社団法人日本能率協会)。「第39回ジャパンホームショー」とともに、新規の「団地・マンションリノベーション総合展」や、昨年に続く「第12回ふるさと建材・家具見本市」「第2回トイレ・バス・キッチン空間・設備フェア」などを合同開催。また「店舗・空間商業空間デザイン展」「The 36th JAPANTECH 2017」(国際インテリア見本市)などが同時開催された。来場者数は41,576名。毎年出展している全国タイル工業組合の「セラミックタイルプラザ」を中心に紹介する。

セラミックタイルプラザ

全国タイル工業組合の出展ブース「CERAMIC TILE PLAZA」では、組合員22社が参加（パネルは32枚）。コンセプトは「タイルのある風景」。企画展示では、モザイクタイルのベンチを作成。それを囲むように、家を形どった各社のパネルを展示し、タイルのある町並みを表現した。インスタグラムやフェイスブックなどに投稿してもらえるように、フリーWifiを設置した。

各社パネルの
紹介



エクシズ

「ジャビエット-T/
ジャビエット-C」



オザワモザイクワークス

「ピッツモザイク19六角
スペシャルパターン」



各務製陶

「アーガイル」



カネキ製陶所

「波紋」



三協製陶

「ラステカボーダー」



杉浦製陶

「Lino -リノ-」



鈴製陶

「波際(なみぎわ)〈仮称〉」



セラメッセ

「ジバング デザインシート
〈KONJIKI-ZE〉」



玉川窯業

「カルセラ/
カルセラ クラシック」



長江陶業

「シトロン/タークル」



名古屋モザイク工業

「ドラジェ
オリジナルデザイン貼り」



ニッタイ工業

「マジカルブリック プレミアム」



日東製陶所
「コレベリ」



久松製陶
「フローアーボーダー」



丸万商会
「アオイ」



山延製陶所
「トピカピィ」



KYタイル
「フォンセーヴ+ブライトマット」



LIXIL
「ペコラ」



TNコーポレーション
「ペルラ-リーフ/
ペルラ-クレスト/
ロッカ-メタル」



アイカ工業
「ストロングガードタイル工法」



美濃焼クールアイランドタイル振興会/
美濃焼CTタイル振興会



モザイク工房
(玉川窯業/
山延製陶所/
山周セラミック)



モザイク工房
(オザワモザイクワークス/
各務製陶/
丸仙化学工業所)



広い展示会場の中で、自由に座れるスペースがあるのはおそらくここだけ。タイルベンチはパネルを眺めるにも、実演を見学するのもよく利用されていた。

来場者のアンケートでは、「波紋」(カネキ製陶所)、コレベリ(日東製陶所)、ドラジェ(名古屋モザイク工業)などのパネルが人気だった。



接着剤張り施工実演

昨年に引き続き、「外装タイルと有機系接着剤の組み合わせ品質認定制度：Q-CAT」の紹介に力を入れ、1日に3回、職人による実演を実施した。

解説は全国タイル工業組合・前専務理事の飯嶋 守氏。実演は名古屋市の1級タイル張り技能士の西岡千恵氏。従来のセメント袋に比べ、接着剤のチューブは2kgほどの重さで、女性でも作業しやすいことなどをアピールした。

今回から展示ブースの内側に実演スペースを配置。実演を見た後に、各社のパネル展示を見てもらえるように配慮した。



Q-CAT認定タイル。



ほかのタイル関連の展示&注目した展示

タイルメーカー・TNコーポレーション(TILE PARK)は大阪の家具メーカー・オーツー (QUON) とコラボレーション。展示スペースの壁などにタイルが張られ、椅子やテーブルが置かれた空間に、質感を添えていた。

外国のメーカーでは、中国のASA TILESが、木目調や大理石調、ファブリック調の600×600ミリ、900×1800ミリなどの大判タイルを展示。ドバイタワーのタイルも手がけたという。

ほか、変わったものとして、ココナッツの殻や木材で作られた輸入モザイクタイルが目をひいた。

タイル以外の展示では、「わざわざ座」に注目。同じ図面をもとに、全国の大工が地元の木材や布を用いて制作したスツールを展示。昨年に続く企画だが、木材の色や質感、布地の多彩さにひかれ、つい立ち寄りたくなる。職人ごとに細部の作りが異なるのも見どころ。



QUONとTILE PARKの展示。



中国のメーカー・ASA TILES。



ココナッツの殻で作られたココナッツアートモザイク。



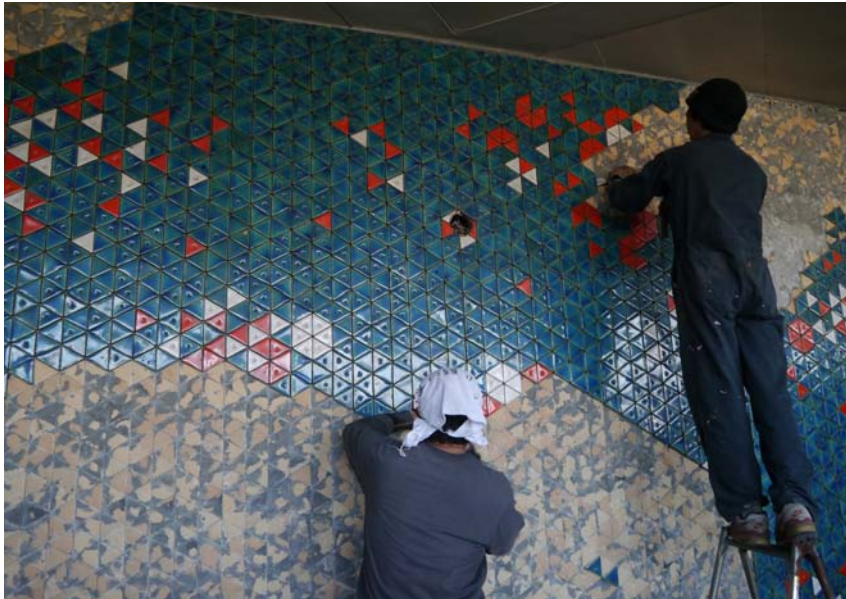
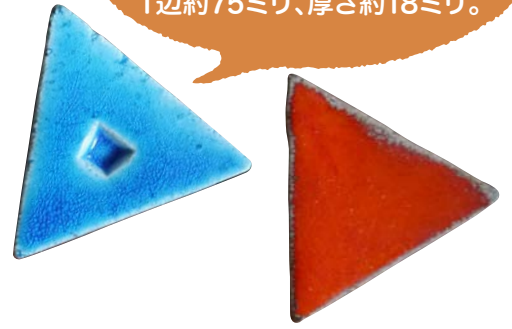
全国の大工が制作した「わざわざ座」のスツール。

タイルのサイズは
1辺約75ミリ、厚さ約18ミリ。

タイル救出大作戦！

～岡山県津山市で壁画のタイルをはがす

2017年10月27日(金)、岡山県津山駅近くに住つ農協会館にカーン、カーンという音が終日、鳴り響いた。解体が決まったこの建物の壁画のタイルをはがす音である。壁画の作者である陶芸家・白石齊さんが呼びかけて、タイルをはがしに各地から人が集まった。この日の様子をレポートする。



カンカンという音が鳴り響く中、ひたすらに作業を続ける。参加者の数は26名だったそう。

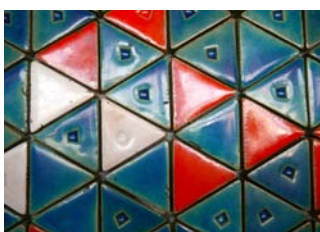


吉井川沿いに建つ農協会館。



この農協会館は1967(昭和42)年の竣工。設計は川島甲士氏(1925～2009)。地下1階から地上3階の各階にタイルの壁画がしつらえられている。そのデザインを手がけたのは津山市出身の陶芸家・白石齊(ひとし)さん。建物が解体されることが決まり、そのまま壊されることを惜しみ、白石さんがフェイスブックなどを通じ、壁画のタイルをはがす人を募集。「タイルは持ち帰り自由」と書き添えた。

壁画は、青、赤、白の三角形のタイル(1辺約75ミリ、厚さ約18ミリ)を使って幾何学のデザインを描いたもの。タイルは壁画のためにつくったオリジナル。フェイスブックの写真からでも、質感と美しさが十分に伝わってきて、これは行かねば!と決意。



タイルは美濃焼の窯で焼かれた。

タガネとカナヅチを使って

津山駅までは岡山駅から津山線で1時間ほど。東京駅を早朝に出発し、到着したときには、作業の開始時間の9時30分をとうに過ぎていた。30～40代くらいの若い人たちが壁に向き合い作業していて、はがされたタイルがたくさん床に散らばっている(なので、はがす前の壁画を撮影できず)。

遅ればせながら作業に加わり、見よう見まねで、カナヅチを持ち、タイルと壁面の間にタガネを打ち付ける。まったく歯が立たず、立ち尽くしていると、隣にいた女性が「一枚をはがして、そこから広げていくといいですよ」とアドバイスしてくれた。目地が入っていない分、はがれやすいとはいえ力が要る。持参した小さなカナヅチでは太刀打ちできず、居合わせたタイル職人さんにカナヅチを借りる。タガネの代わりに何度も手を打ち付けながら、徐々に作業に慣れていく。きれいにはがれれば、この上ない嬉しさ。

タイルの使い道は？

昼食もとらず作業に没頭する人もいて、夕方までに各階の大部分のタイルがはがされた。片づけも済み、

静まった館内で、タイルの跡だけが残る壁面を見ていると、すがすがしくも少し寂しい。でも、はがされたタイルが建物と壁画の記憶を伝えていくだろう。

各人は持参した箱にタイルを詰め（丁寧に色分けしている人もいた）、大切に持ち帰った。その総数、約1万枚！

タイルを使う場所を聞いたところ、「再生している古民家で使いたい」「自分のお店の壁面に張りたい」「庭に使いたい」「古いものが好きだからとりあえず来た」と様々な声が聞かれた。

ときおり来た人に話しかけながら、作業の様子を見守っていた白石さんは、ある計画を立てている。「このタイルを使ってアート作品を作りたいという方もいました。このタイルをどう使ったのか、来年(2018年)には展示をやりたいですね」

津山から旅立ったタイルは、どんな場所、どんな形で第二のタイル人生(?)を送るのだろうか。



壁に張られた三角形のモザイクタイルも白石さんのデザイン。



かつては結婚式場としても使われた。とびらの三日月のような金色の取手は、津山文化センターでも見られた。



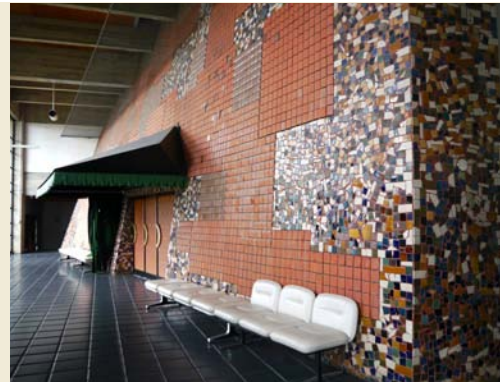
タイルがはがされて、少し寂しさを感じさせる壁面。タイルはどこに旅立ったのでしょうか。

津山文化センターのタイル装飾

津山市内には、白石さんがタイル装飾を手がけた建物がもう一軒ある。津山城跡に建つ、津山文化センターである。農協会館と同じく、設計は川島甲士氏。展示棟の外壁面のデザインは粟津潔氏。

竣工は1965年。寺社建築の様式である斗拱(ときょう)による構造を特徴とする。「DOCOMOMO JAPAN」(モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織)にも選定されている。

2018年4月から約2年間かけて耐震補強工事の予定。こちらは長く使い続けられると思うと嬉しい。



大ホールの外壁を飾るタイル装飾。



事務室のそばのタイルの壁。